

## 第1回研究会

# 『新潟県中越沖地震における 保健衛生行政の役割』

鈴木 幸雄（新潟県福祉保健部 部長）

2007年8月6日（月）



新潟県中越沖地震による被害情報について、市町村等から報告のあったものを取りまとめましたのでお知らせします。  
 住家被害の合計は 26,418 棟です。

新潟県災害対策本部  
 平成19年8月2日 21:00現在

○ 被害総数

区分	人的被害(人)			住家被害								非住家被害 公共施設 +その他 棟	
	死者	行方 不明	重軽傷者	全壊		大規模半壊		半壊		一部損壊			被害認定 進捗状況
				棟数	世帯	棟数	世帯	棟数	世帯	棟数	世帯		
新潟県計	11	0	1,957	1,069	1,069	313	313	1,816	1,818	23,220	23,223	-	16,404

○ 各市町村別の被害

区分	人的被害(人)			住家被害								非住家被害 公共施設 +その他 棟	
	死者	行方 不明	重軽傷者	全壊		大規模半壊		半壊		一部損壊			被害認定 進捗状況
				棟数	世帯	棟数	世帯	棟数	世帯	棟数	世帯		
新潟市			12					1	1	28	28		14
長岡市			243	8	8	18	18	258	258	2,572	2,572		1,323
三条市			32							347	347		1
柏崎市	10		1,339	908	908	201	201	1,251	1,251	16,218	16,218		12,077
小千谷市			40							70	70		54
十日町市			8					4	4	58	68		93
燕市			10	2	2	1	1	3	3	606	606		125
妙高市			0					2	2	26	27		9
上越市			132	13	13	1	1	39	41	1,967	1,959		1,297
魚沼市			6							2	2		19
南魚沼市			4							4	4		4
出雲崎町			10	17	17			84	84	719	719		290
刈羽村	1		105	121	121	92	92	174	174	271	271		1,034
加茂市			0										8
湯沢町			1										
見附市			14					0	0	325	325		47
佐渡市			0										1
阿賀野市			0							1	1		1
糸魚川市			1							6	6		7

※ 数値については速報値であり、今後変更される可能性があります。  
 ※ 被災者については、被災地別で計上（例：A町の住民がB町において被災および発症した場合、B町における計上とする。）

○被害の詳細について

(1) 柏崎市

- 76歳男性が建物の下敷きになって死亡。
- 72歳女性が建物の下敷きになって死亡。
- 79歳女性が建物の下敷きになって死亡。
- 81歳女性が建物の下敷きになって死亡。
- 83歳男性が建物の下敷きになって死亡。
- 83歳男性が建物の下敷きになって死亡。
- 77歳女性外傷性硬膜下血腫により死亡。
- 71歳女性が建物の下敷きになって死亡。
- 76歳男性が建物の下敷きになって死亡。
- 47歳男性が熱傷により死亡。

(2) 刈羽村

- 79歳女性が建物の下敷きになって死亡。

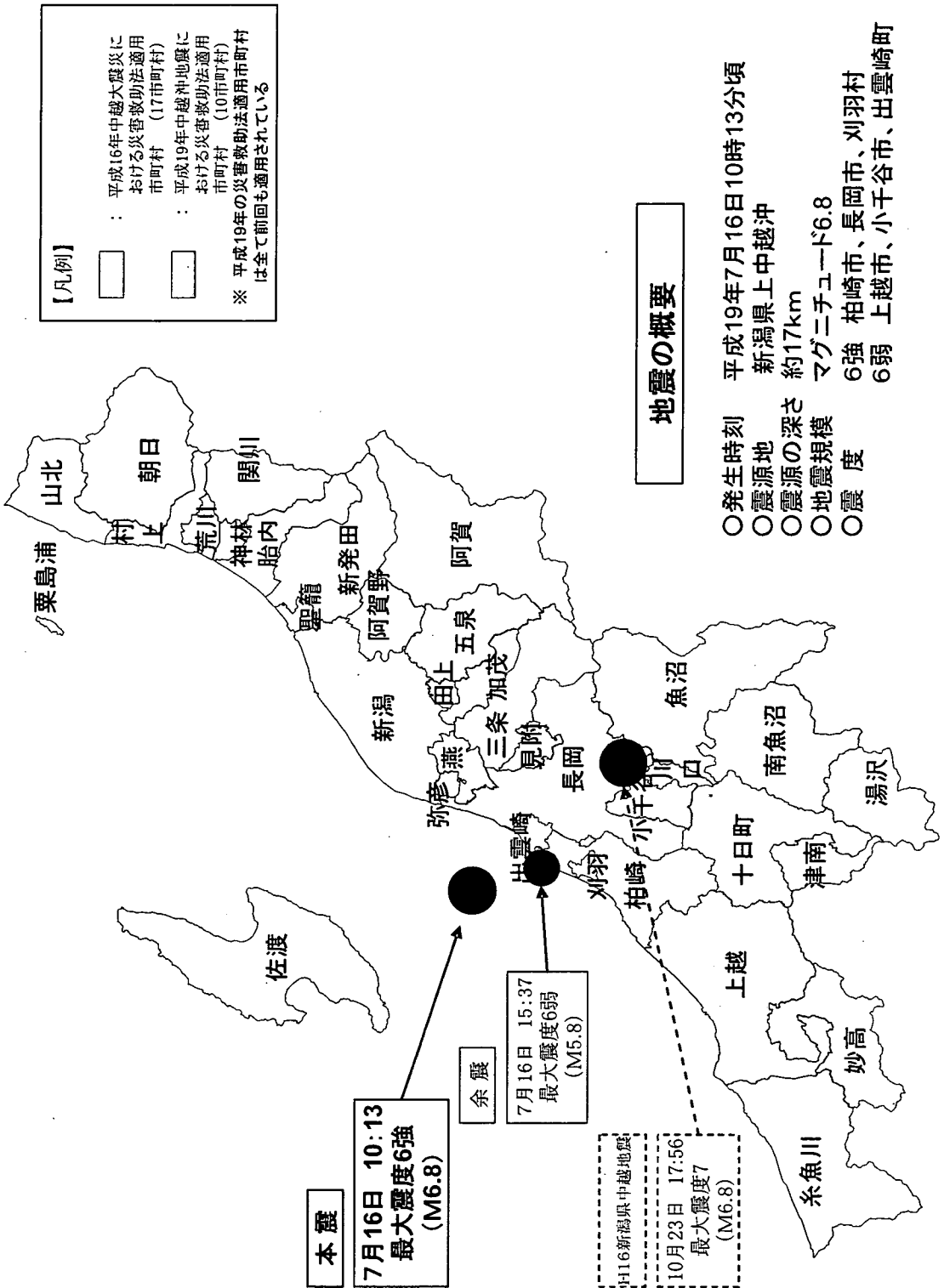
○災害救助法の適用状況について

平成19年7月16日、以下の市町村に対し、災害救助法の適用を決定。  
 長岡市、柏崎市、小千谷市、上越市、出雲崎町、刈羽村  
 三条市、十日町市、燕市、南魚沼市（合計10市町村）

○市町村災害対策本部設置状況

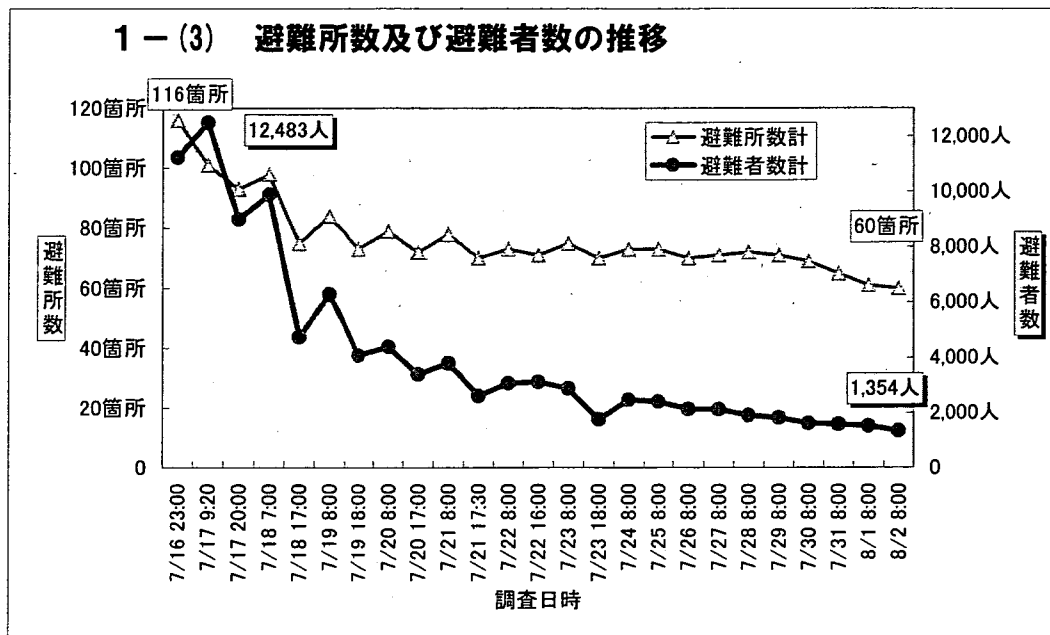
県内13市町村において災害対策本部を設置  
 （設置中）  
 長岡市、柏崎市、小千谷市、十日町市、見附市、上越市、出雲崎町、  
 川口町、刈羽村  
 （解散済み）  
 新潟市、三条市、南魚沼市、燕市

# 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震の状況



平成19年(2007年)新潟県中越沖地震と平成16年新潟県中越大震災の比較

地震の概要		新潟県中越大震災
地震規模	マグニチュード6.8	マグニチュード6.8
最大震度	震度6強	震度7
災害救助法適用市町村	10市町村	17市町村(合併後)
人的被害	死者(人)	67
	重軽傷者(人)	4,795
住家被害	全壊(棟)	3,175
	半壊(棟)	13,804
	一部損壊(棟)	103,767
	合計(棟)	120,746
避難状況	避難所(ヶ所)	603
	避難者数(人)	約103,000
ライフラインの状況	電気(停電)(戸)	約300,000(概ね10日ではほぼ復旧)
	ガス(停止)(戸)	約56,000(概ね2ヶ月ではほぼ復旧)
	上水道(断水)(戸)	約130,000(概ね1ヶ月ではほぼ復旧)
地震・被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中心市街地の個人住宅など建築物に被害</li> <li>○中越大震災の復旧復興過程での再度の被災</li> <li>○原子力発電所の被害と地域への影響</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新幹線、高速道路等の高速交通網の寸断</li> <li>○中山間地の地盤災害</li> </ul>	



避難者数の状況			総 計					
報	月日	時間	総 計		うち 柏崎市		うち 刈羽村	
			避難所	避難者	避難所	避難者	避難所	避難者
第7報	7月16日	23:00	116箇所	11,229	71箇所	9,859	5箇所	724
第8報	7月17日	9:20	101箇所	12,483	73箇所	11,348	6箇所	791
第9報	7月17日	20:00	93箇所	8,995	71箇所	8,257	5箇所	580
第10報	7月18日	7:00	98箇所	9,883	74箇所	9,024	5箇所	653
第11報	7月18日	17:00	75箇所	4,743	60箇所	4,382	5箇所	322
第12報	7月19日	8:00	84箇所	6,278	66箇所	5,715	6箇所	483
第13報	7月19日	18:00	73箇所	4,069	61箇所	3,817	6箇所	233
第14報	7月20日	8:00	79箇所	4,385	63箇所	3,931	6箇所	404
第15報	7月20日	17:00	72箇所	3,394	60箇所	3,120	6箇所	257
第16報	7月21日	8:00	78箇所	3,794	63箇所	3,375	6箇所	373
第17報	7月21日	17:30	70箇所	2,613	60箇所	2,326	6箇所	272
第18報	7月22日	8:00	73箇所	3,073	60箇所	2,683	6箇所	337
第19報	7月22日	16:00	71箇所	3,112	62箇所	2,823	6箇所	273
第20報	7月23日	8:00	75箇所	2,877	65箇所	2,499	6箇所	335
第21報	7月23日	18:00	70箇所	1,756	62箇所	1,589	6箇所	158
第22報	7月24日	8:00	73箇所	2,468	66箇所	2,268	6箇所	180
第23報	7月25日	8:00	73箇所	2,396	65箇所	2,077	6箇所	308
第24報	7月26日	8:00	70箇所	2,126	63箇所	1,821	6箇所	287
第25報	7月27日	8:00	71箇所	2,116	64箇所	1,846	6箇所	254
第26報	7月28日	8:00	72箇所	1,903	65箇所	1,640	6箇所	247
第27報	7月29日	8:00	71箇所	1,823	64箇所	1,548	6箇所	257
第28報	7月30日	8:00	69箇所	1,617	62箇所	1,457	6箇所	150
第29報	7月31日	8:00	65箇所	1,587	58箇所	1,358	6箇所	222
第30報	8月1日	8:00	61箇所	1,518	55箇所	1,285	5箇所	212
第31報	8月2日	8:00	60箇所	1,354	54箇所	1,148	5箇所	197

## 新潟県中越沖地震災害に係るDMA Tの活動について

### 1 活動期間

平成19年7月16日（月・祝）午前10時13分～18日（水）午前10時

### 2 DMA T活動現地本部

厚生連刈羽郡総合病院（災害拠点病院）

### 3 統括DMA T

新潟市民病院DMA T

### 4 被災地における活動DMA T数（現地本部指示に従い現地待機のDMA T数も含む）

38病院・41チーム 県内病院 5病院・6チーム  
 県外病院 33病院・35チーム

※ 内訳は別紙のとおり

### 5 活動内容

- ・ 刈羽郡総合病院での被災患者（約580人）のトリアージ・他病院への搬送・診療等の医療支援
- ・ 避難所での救護活動
- ・ ドクターヘリ（日本医科大学千葉北総病院DMA T）による広域搬送（2件3人）

### 6 活動の概要

日 時		活動内容等
7月16日	10:13頃	・新潟県中越沖地震発生
	13:35	・新潟市民病院DMA Tが刈羽郡総合病院に到着し、同病院での医療支援を開始
	14:17	・当県からのDMA T派遣要請を受け、厚生労働省が当県近隣県に対し、DMA Tの派遣要請 近隣県＝山形県、福島県、群馬県、長野県及び富山県
	14:20～	・逐次、県内及び県外のDMA Tが刈羽郡総合病院に到着し、同病院での医療支援を実施 ・ドクターヘリ（日本医科大学千葉北総病院DMA T）が被災地内の野球場に到着し、広域搬送を開始（14:51） ・統括DMA Tが勤務ローテーションを作成し、3交替制により医療支援を実施
7月17日	終日	・勤務ローテーションに従い、刈羽郡総合病院での医療支援及び避難所での救護活動を実施
7月18日	～10:00	・勤務ローテーションに従い、刈羽郡総合病院での医療支援及び避難所での救護活動を実施
	10:00	・DMA T活動現地本部閉鎖

## 障 害 者 対 策

### （１）被災障害者への支援

- 7月16日～ **障害福祉施設等での緊急受け入れ体制**を把握しホームページ等で情報提供。（毎日更新）
  - ・受け入れ実績 最大30人から11人（8月1日現在）に減少
- 7月18日～ 柏崎市内に障害者相談支援センター（拠点）を立ち上げ、相談員が訪問又は電話により状況確認及び相談支援を実施。（別紙参照）
  - ・基本体制 柏崎市内の相談員4人、派遣相談員11人
  - ・相談延件数（8月1日現在） 2,520件
- 7月19日～ 重度心身障害者医療費助成受給者証を紛失などにより提示できない場合に申し出により助成可能とする取扱いを周知
- 7月20日～ 柏崎市に**手話通訳者を派遣**。聴覚障害者の自宅や避難所を訪問し、ニーズ把握を行うほか、行政手続の窓口対応を支援。
  - ・派遣者数 7月20日 1人
  - 7月21日～ 4～5人
  - 7月30日～ 2人
- 7月21日～ 新潟市の障害者交流センターに**人工透析患者用福祉避難所**を設置
  - ・利用実績 7月24日～8月5日（予定）1人

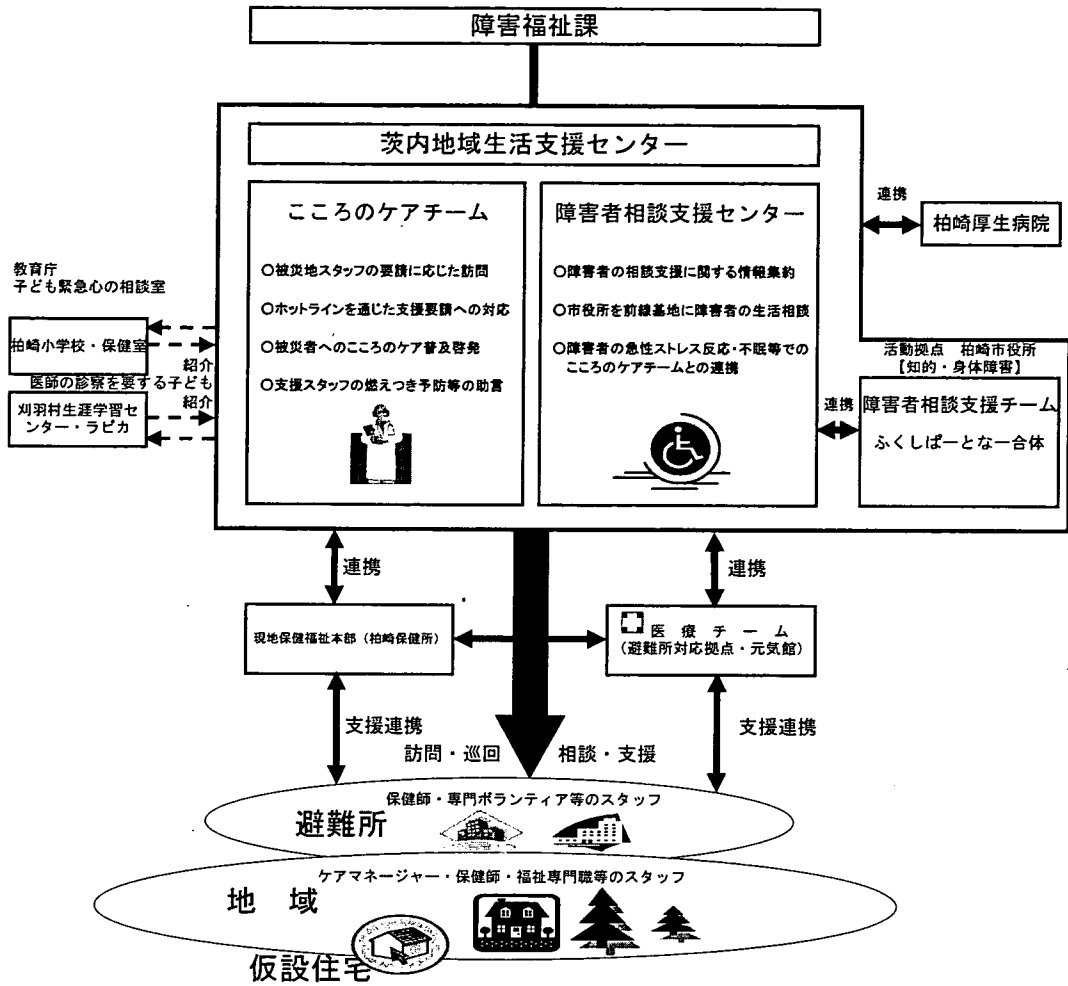
### （２）障害者施設への支援

障害福祉施設のニーズを把握し関係団体と連絡調整を行って人的・物的支援を実施。

- 7月23日～ 新潟県身体障害者施設協議会が、在宅重度身体障害者の入浴サービス（於：柏崎市元気館）支援のため職員を派遣中。（派遣職員数：1日2人）
- 7月25日～8月3日・新潟県知的障害者福祉協会が、柏崎市内の障害福祉サービス事業所利用者支援のため職員を派遣。（派遣職員数：延べ19人）
  - ・移動式ガス発生設備のニーズ調査を行い、日本ガス協会に情報提供し4施設に対応。
- 7月19日～8月3日 新潟県知的障害者福祉協会が、柏崎市内の知的障害者施設等4箇所に物資提供及び利用者支援等のため職員派遣。（派遣職員数：延べ50人）



被災地の心のケア・被災障害者の相談支援拠点



## エコノミークラス症候群

### (1) これまでの対応

#### ア 予防啓発ちらしの配布

平成 19 年 7 月 17 日夜及び 18 日朝に、柏崎市及び刈羽村の避難所周辺で車中泊をしている人へ予防啓発ちらしを配布した。また、市町村、県警、県教育委員会等の協力により、ちらし 2 万 2 千部、ポスター 300 部を避難所等に配布した。

#### イ 検診の実施

平成 18 年 9 月に県及び県医師会が作成した深部静脈血栓症 (DVT) / 肺血栓塞栓症 (PE) の診断、治療ガイドラインに基づき、次のとおり検診を実施した。

#### ○ 県による検診（県医師会及び地元医師会と共催）

対象：車中泊者を中心とした地域住民全体

月日	検診会場数	受診者数	血栓所見有り
H19.7.28(土)	4 ( 7 )	227 人	8 人
H19.7.29(日)	4 ( 5 )	318 人	10 人
合計	8 (12)	545 人	18 人 (3.3%)

( ) 検診会場を拠点にサテライト的に実施した会場を含めた数

#### ※ 新潟大学、国立病院機構新潟病院合同チームによる検診

対象：避難所の利用者

月日	検診会場数	受診者数	血栓所見有り
H19.7.18~24	実 21 延 29 避難所	437 人	31 人 (7.1%)

### (2) 中間評価

上記検診の結果、血栓所見有りの割合は 5.0%であった。

平成 16 年小千谷市における同様の検診では、血栓所見有りが 26%であり、今回低かったのは、行政・関係機関が早期に注意喚起を行ったことや住民が中越大震災の経験を踏まえた予防策を講じたことなどが生かされた結果と考えられる。

### (3) 今後の課題

#### ア 早期における検診スタッフの確保

エコノミークラス症候群予防の専門的知識及び技術を有するものは少なく、県内外を対象にあらかじめ検診スタッフの確保を図る必要がある。

#### イ 検診実施後の治療体制等の構築

検診実施後に発症の可能性のある人への適切な対応が必要であり、研修等により地域内に血栓等の治療ができる医療機関の確保が必要である。



## 避難所の環境評価

### 1 概要

梅雨明け前に、2 避難所の空気環境測定を 2 日間行ったが、問題は無かった。

### 2 測定条件

#### (1) 測定場所

柏崎市元気館（一般避難者用居室、要援護者用居室）

田尻コミュニティーセンター（一般避難者用居室）

#### (2) 測定日

7月21日（雨）、7月24日（晴） 各測定ポイントとも日中に2回測定

### 3 測定結果

浮遊粉じん、一酸化炭素、二酸化炭素は良好であり、空気の汚染は見られなかった。温度、湿度が若干高かったが、当日の外気環境とほぼ同じであり、特に問題はなかった。

測定結果詳細

項目	建築物衛生法基準※	最大	最小	平均
浮遊粉じん	1 m <sup>3</sup> につき 0.15mg 以下	0.05	0	0.02
一酸化炭素	10ppm 以下	非検出	非検出	非検出
二酸化炭素	1000ppm 以下	600	400	510
温度	17℃以上 28℃以下	28.9	24.6	26.8
相対湿度	40%以上 70%以下	89	61	73
気流	0.5m/秒以下	0.6	0.2	0.4
屋外 温度	-	28	24.3	27.1
屋外相対湿度	-	93	63	75.4
不快指数※※（屋内）		79.7	73.9	76.9
不快指数※※（屋外）		80.0	75.1	76.9

※建築物衛生法の基準

空調機を設備したビルの基準で、環境衛生上良好な状態を維持するとの観点で定められており、最低許容基準では無い。

※※不快指数（～75 快適、76～80 やや不快、81～85 不快、86～たまらない）

### 4 今後の対応予定

梅雨明け後の真夏日に再度空気環境測定を行う予定。（8月7日に予定）